

シラバス：公共選択論

2020 年度春学期



講師：浅古泰史 研究室：3-1221 連絡先：yasushi.asako@waseda.jp

概要

従来の経済学において「政府」は、社会にとって望ましい政策を実行する主体として表現されることが多い。すなわち、政府の意思決定過程を捨象しているという意味で、政府を「ブラックボックス」として扱っている。しかし、現実には、政府が望ましい政策を常に実行しているとは限らない。そこで、経済理論と実際のギャップを埋めるため、近年、経済学と政治学を融合させた学際的研究が発展している。これらの研究分野は、「公共選択論」、「(新しい)政治経済学」、「数理政治学」など様々な名称で呼ばれているが、いずれの名称にせよ、個々の政治家や官僚などのインセンティブから考えることによって、現実の政策に関する意思決定過程を分析している。現在、経済学だけではなく政治学にとっても、このような経済学的手法（ゲーム理論・計量分析）は重要な分析手法となっている。

それでは、政治家はどのような政策を実行するインセンティブを持っているのか？どのような場合に、政治家は「望ましい政策」を実行しないのか？政治家に望ましい政策を選ばせるためには、どのような制度を構築するべきだろうか？講義では、主に民主主義下の政治制度を考え、ゲーム理論をもとに、これらの問いに関して議論していく。

履修要件

政治に関する議論を行っていくが、ここで使われる手法はゲーム理論をはじめとした数理分析である。そのため、数学の苦手な学生、あるいは数学を用いることに嫌悪感をもつ学生は履修するべきではない。またゲーム理論を用いることから、「ゲーム理論入門 (Introduction to Game Theory)」を履修要件とする。「ゲーム理論」あるいは「Game Theory A/I」を履修しておいた方が理解は深まるが、履修要件とはしない。

重要な日程（予定）

6 月 18 日（木）：宿題の締め切り

7 月 30 日（木）：持ち帰り期末試験の提出締め切り

教科書および参考書

本講義では、以下の著書を教科書として使用する。

浅古泰史(2018)『ゲーム理論で考える政治学』有斐閣

ただし、講義内容のすべてが教科書と一致しているわけではなく、教科書では議論されていないことも講義内では議論する。講義内容の難易度は教科書より高い。一部の講義では教科書を事前に読んでいることを前提に講義を行う。本書は各図書館にあり、政経読書室では「館内利用のみ」と「貸出用」の 2 冊を用意している。また、教科書の練習問題 (Exercise) の解答はウェブで公開されている。

(<http://yuhikaku-nibu.txt-nifty.com/blog/2018/12/14928.html>)

その他の参考書は以下の通りである。1 は本講義より難易度は低く、2 と 3 は高い。

1. Shepsle, Kenneth (2010) *Analyzing Politics: Rationality, Behavior, and Institutions* 2nd edition, W.W. Norton & Company.
2. Gehlbach, Scott (2012) *Formal Models of Domestic Politics*, Cambridge University Press.
3. 浅古泰史(2016)『政治の数理分析入門』木鐸社

講義外の学習

【予習】一部の講義では、教科書の一部を事前に読んでおくことを前提に行う。教科書からは、主に Chapters 2, 3, 4, 5, 6, 8 を読むように指示を出す予定である。各章に対応する講義に関しては下記の「スケジュール」に示してある。

【復習】各講義に対応した練習問題、およびその解答を Moodle 上に提供する。練習問題は自習用であるため、提出の必要はない。講義を受けた後に、その講義に対応する練習問題を解いてほしい。まずは解答を見ずに挑戦することをお勧めする。過去の試験問題は、基本的にすべて練習問題として提供する。

成績評価

成績は期末試験、および宿題によって決定される。期末試験は 60%、宿題は 40%のウェイトとする。全履修者のうち、10%が A+、20%が A、40%が B、30%が C か F となる。全体の成績が（宿題も含め）40 点以下（0~40）の者を F とする。

① 宿題

学期の中間時点で 1 度だけ宿題を提出させる。内容としては（期末試験に類似している）数問の問題を解いたうえで、Moodle に提出してもらう。提出期日は 6 月 18 日（木）を予定している。提出日前に宿題を解く時間を確保しておくこと。

② 期末試験

記述式の持ち帰り試験（take-home exam）を行う。内容としては、数問の問題を締め切りの約 24 時間前に公表し、Moodle を通して解答を提出してもらうことを予定している。提出期日は 7 月 30 日（木）を予定している。この場合、問題の公表は 7 月 29 日（水）となる。試験を解く時間を確保しておくこと。

宿題・試験は Moodle での提出が原則となっている。Moodle で提出する場合、ファイルの容量が大きすぎると提出できない可能性がある。よって、Moodle で提出する場合には、word もしくは tex を用いてタイプしたうえで、pdf ファイルでの提出をすること。

学生の成績は上記の課題により決定され、他のいかなる救済措置も行わない。学期末に、試験用紙、あるいはメールなどで、直接私に救済措置を求めてきた場合は、成績を F とし、要求には決して取り合わない。採点のやり直しなどは事務所を通して正式に要求すること。

宿題および試験は Moodle で提出が可能なことから、締め切りを過ぎた提出は原則受け取らない。また、再試・追試も行わない。

スケジュール

（今学期はスケジュールの大幅な変更もあり得る。）

1. ガイダンス（オンデマンド配信済み）
2. 選挙 1: 選挙のサイクルと最強の選択肢
3. 選挙 2: 二大政党制（Chapter 2）
4. 選挙 3: 多党制・複数の政策課題
5. 執政 1: モラルハザード（Chapter 3）
6. 執政 2: 逆選択（Chapter 5: 同一の内容を講義予定）
7. 執政 3: ポピュリズム
8. 議会 1: 組閣と不信任決議
9. 議会 2: 議会内交渉（Chapter 4）
10. 議会 3: 二院制
11. その他 1: 利益団体（Chapter 6）
12. その他 2: 官僚（Chapter 8）
13. 未定
14. 未定（宿題と解説で代替予定）
15. 期末試験